

# 広報誌 おかよう

第3号

平成25年3月31日発行

発行元：岡山県児童養護施設等協議会「職員関連事業部会」

## 会長あいさつ

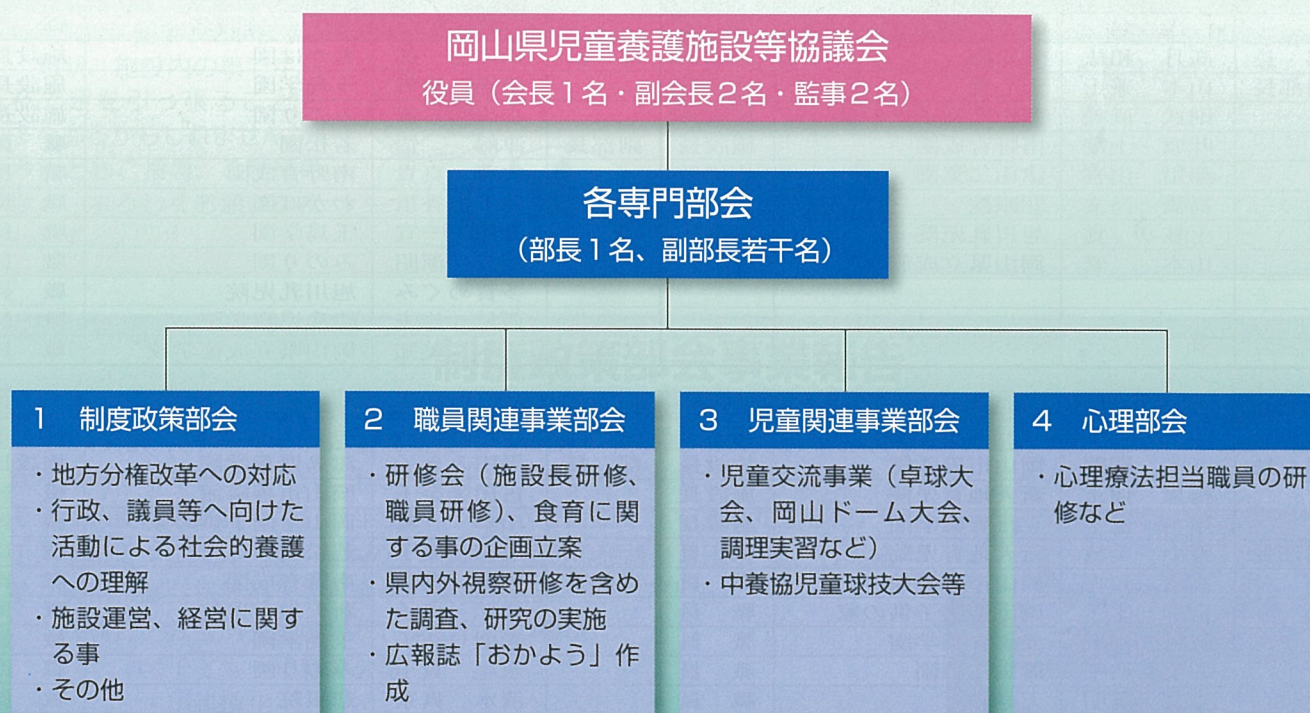
会長：高橋 昌文



長年に渡り「岡山県児童養護施設等協議会研究部会」として、岡養協に加盟する各施設から代表職員が派遣され、様々な調査・研究・研修事業や子ども達の交流事業の企画等に取り組んできたことは関係施設の職員の皆様方はよく御承知のことと思います。そして今回、その「研究部会」をさらに飛躍・発展させるべく体制を再構築し、「岡山県児童養護施設等協議会専門部会」として再出発することいたしました。今回発足した専門部会には施設長もその中にそれぞれ名を連ね、施設長と現場職員の意識の共有と、企画したアイデアを迅速に具体化できる体制を整えております。

岡山県児童養護施設等協議会が、今回体制構築を図った4つの専門部会（制度政策部会・職員関連事業部会・児童交流事業部会・心理部会）を中心に、子ども達の最善の利益を追求する姿勢を大切にし、岡養協がより強固な組織となり未来に前進していけることを心より願っております。

## 平成24年度 岡山県児童養護施設等協議会 組織図



# 各専門部長あいさつ

## 【制度政策部会】

部長：高月 和紘

最近まで、福祉施設長の大切な仕事の一つに予算獲得陳情という使命があったが、今日では、予算要求のみではなく国や地方公共団体に対して制度の改善や改革、政策への提言もしていき、より良い施設の管理・運営にあたり施設利用児(者)の最善の利益が図れるように努めなければならなくなりました。

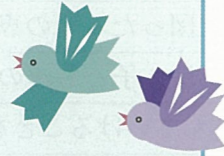
斯様な状況から制度政策部会を設けましたが、この部会を有意義ならしめるには、日々子どもたちに寄り添って生活している職員が子ども達の代弁者として大いに提言していただきたいと考えます。まさに地方分権化と福祉改革がなされている今日、岡山県・岡山市に対し種々の提言をしていかなければなりません。皆さんの協力をお願いします。

## 【心理部会】

部長：黒田みき子

平成24年度、これまでの心理部会から新たに専門部会として再スタートとなりました。

多くの施設の心理士が一人職場で頑張っています。新人からベテランまで、また勤務形態も常勤から非常勤まで、生活の中に入っている心理士もいれば心理業務を専門に行っている心理士など、経験、業務内容も様々です。心理部会では、心理士としてお互いが刺激し合え、必要な学びや情報共有、また心理士仲間として支えあえる部会を目指したいと思っています。



## 【職員関連事業部会】

部長：松田浩一郎

「心・技・体」これはスポーツの世界でよく使われる言葉です。元々は柔道からきているもので、精神を鍛え、技術を磨き、強靱な肉体をもって立派な人になる、という意味です。

しかし、このことは現在の私たちにも求められているのではないかと思います。心強く豊かに、子どもたちそれぞれにあった対応を、健康な体をもって成していく。その一助となれるよう、部員一同努力して参ります。ご理解とご協力のほど、宜しくお願ひ致します。

## 【児童関連事業部会】

部長：三宅 嗣朗

この部会では、「中高生対象調理実習」、「中国地区児童球技大会」、「児童福祉施設卓球大会」、「児童養護施設交流事業」を実施しました。まずはケガや事故もなく無事に事業を終えることができたことを関係者の皆さんに感謝いたします。

今後の課題として、調理実習、球技大会、卓球大会については参加施設が固定化してきていること、球技大会、卓球大会は歴史のある大会であるが競技内容が子どもたちのニーズに合っているか、また実施内容や開催場所に合わせた予算措置をしてもらいたいなどが反省事項として挙げられます。

今年度は部会として初めての取り組みであったため、前年度を踏襲する形となりましたが、今後は多くの子どもたちが楽しく積極的に参加できるよう、常に新しい視点を持った企画運営をしていきたいと考えております。

# メンバー紹介

(H24. 4. 1時点)

制度政策部会				職員関連事業部会			
	氏名	施設名	備考		氏名	施設名	備考
部長	高月 和紘	若松園	施設長	部長	松田浩一郎	わかば園	施設長
副部長	山本 兼士	天心寮	施設長		田邊 裕宥	玉島学園	施設長
	則武 直美	岡山聖園子児の家	施設長		小出 毅	みのり園	施設長
	叶原 土筆	南野育成園	施設長	副部長	津嶋 悟	若松園	職員
	藤川 由香	津山二葉園	施設長		佐藤 真貴	南野育成園	職員
	高橋 昌文	悲眼院	施設長		津下由香里	わかば園	職員
	土岐 覚	旭川乳児院	施設長		上田 一宣	玉島学園	職員
	山本 繁	岡山県立成徳学校	施設長		溜谷 潔昭	みのり園	職員
					多賀めぐみ	旭川乳児院	職員
					西村 悠未	津島児童学院	職員
					三木 美知	岡山県立成徳学校	職員

児童関連事業部会				心理部会			
	氏名	施設名	備考		氏名	施設名	備考
部長	三宅 嗣朗	岡山市善隣館	施設長	部長	黒田みき子	津島児童学院	施設長
	梅里 伸正	新天地育児院	施設長		古田美奈子	岡山市善隣館	職員
	岸本 延子	立正青葉学園	施設長		山本 翼	岡山聖園子児の家	職員
副部長	野中 美枝	新天地育児院	職員		塩田 陽子	若松園	職員
	高島 和真	岡山市善隣館	職員	副部長	佐藤 真貴	南野育成園	職員
	宮部 圭子	岡山聖園子児の家	職員		恒弘 典子	新天地育児院	職員
	野村 由紀	立正青葉学園	職員		寺園 紘子	玉島学園	職員
	井上 裕子	津山二葉園	職員		永尾 貴子	みのり園	職員
	立花 正明	天心寮	職員		清水 真奈	悲眼院	職員
	田淵 勲	悲眼院	職員		山田 恵美	旭川乳児院	職員
					松坂竜之介	岡山県立成徳学校	職員

# 新任施設長紹介

## 【成徳学校】

施設長 山本 繁



中央・倉敷児童相談所の勤務を経て、13年ぶりに成徳学校に戻りました。児童相談所在籍中は、多くの施設長さんや担当職員の方に無理なお願ひを繰り返して、随分と助けていただきました。

「よし、わかった。頑張ってみます。」と快く了解をくださった皆さんと同じように振る舞いたいと思いながら一年が過ぎ、いつの間にか新米施設長の初心者マークを外す時期となりました。これからも、児童を措置する側の経験を活かしながら、施設の現場の声を児童相談所に届けていきたいと思っています。

研修等でお会いする機会もあると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 【天心寮】

施設長 山本 兼士

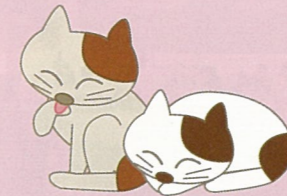


平成24年4月1日に、新しく天心寮の施設長を拝命しました、山本兼士と申します。

天心寮は、岡山市から北に20km、赤磐市に位置し、施設の周囲100m圏内に、小学校・保育園・数軒の住宅があるだけで、田畑と小高い山に囲まれた、のどかな雰囲気の中にあります。

今までは指導員として、児童との関わりが主でしたが、管理職になり、子どもだけでなく人事・運営等にも関わらねばならず、就任以来、周囲ののどかさとは対照的に、次から次へ様々なことが起こり、頭を抱えて悩み続けた1年でした。昨今、猪突猛進の状況から少し脱し、俯瞰できるようになりましたが元来の不器用のため、まだまだ低空飛行に留まっています。

現状、施設内の事で一杯で足を引っ張ることも多々あるかもしれませんが、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



## 【津島児童学院】施設長 黒田みき子



早いもので着任二年目となりました。学院は皆様ご存じのように短期の心理治療施設で、子どもたちにとって通過施設となります。何らかの傷つきや特性を抱えた子どもたちが、できるだけ早期に家庭や地域に復帰できるよう、心理治療、また生活面や学習面など様々な治療や支援をすることが大きな役割です。私たちは、子どもたちや保護者の方が少しでも「学院に来てよかった」「意味があった」と思っただけのよう、最大限努めていきたいと考えています。

将来、子どもたちがその子らしく、またそのご家族らしくできるだけ笑顔で過ごせるように、どうぞよろしくお願いいたします。

## 【津山二葉園】

施設長 吉村 惣子



昨年の11月に施設長に就任致しました。私は、大学卒業後、十数年児童養護施設に勤務し、結婚のため二十数年、生活の基盤を東京に移しました。そして、又、津山で暮らすこととなり、初めは、二葉園の子ども達が通学している学校一つをとっても、津山と東京の違いに戸惑いました。

東京では、地域の一員として児童養護施設にかかわることがありました。地域の小中高や特別支援学校に通う児童養護施設の子供たち、職員に対する第三者からの評価を痛感しました。福祉施設の中にいた人間だからこそ感じ得たことだと思えます。

現在、子どもの遊びがゲーム主流になっています。学校の友達が遊びに来ていても、ことばを交わさず、各自のゲーム機の画面しか見ていません。動物を通して生きているあたかみを教えること。軽度発達障害のある子どもの「ひとりだち」への支援が優先すべき課題だと感じています。いろいろな個性を大切に「すべての人にあたかか」を念頭に思いやりのある子どもに育てられるよう施設長としての支援は勿論、母親としての気持ちも大切に子どもたちを育てていきたいと思っています。

# 制度政策部会事業報告

地方分権化の流れの中で、児童福祉施設の最低基準も地方条例化される時代になってきました。

我々は岡山県や市に対し、これまで以上により緊密な連携をしていかなければなりません。

そこで制度政策部会では、今年度以下のような活動をしてまいりました。

1. 横田えつこ岡山県議、鬼木のぞみ岡山市議との懇談会 (H24. 6. 11実施)
2. 岡山市議会保健福祉委員会への要望 (H24. 10. 7実施)

(内容)・社会的養護の現状、条例化への要望

- ・子ども・子育て会議
- ・小規模化
- ・ショートステイへの加配



・個別支援学級の常設などについて

- 3. 鬼木岡山市議との話 (H24. 10. 28実施)
- 4. 条例化に対する岡山市こども企画課への要望 (H24. 10. 29実施)
  - ・条例化についてのパブリックコメントとして、岡養等の要望書を提出。
- 5. 岡山市こども企画課、岡山市こども総合相談所との懇談会 (H25. 3. 22)

来年度はこの他の関係機関（教育委員会・福祉事務所・医療関係など）とも連携を図りながら、社会的養護をめぐる問題や課題に取り組んでいきたいと考えています。

### 職員関連事業部会事業報告

#### 平成24年度 岡山県児童養護施設等新任職員研修会



『平成24年度 岡山県児童養護施設等新任職員研修会』が6月29日（金）きらめきプラザにて開催され、岡山県児童養護施設等協議会に加盟する13施設31名の新任職員が参加されました。

岡山県児童養護施設等協議会高橋会長の開会挨拶から始まった午前中の講義では、「岡山聖園子供の家」施設長の則武先生を講師にお招きし、講義をして頂きました。

『社会的養護の現状について～きみも岡養の一員だ～』と題し、厚生労働省の最新の情報を元に、社会的養護の現状について、社会的養護を必要とする子ども達の支援を、国が、各自治体が、施設が、どのようなビジョンを持って支援を行っているのか等方向性についてご講義頂きました。また、岡養に加盟している施設で働いている職員として『おかよう』とはどういう組織か説明して頂くなど、社会的養護を必要とする子どもへの支援に関してボリュームのある講義をして頂きました。新任職員の皆様も真剣な面持ちで聞き入っていました。

講義後、午後からのグループワークに向け、グループ分けを行い、各グループで自己紹介と各々が所属する施設の紹介を行いました。各施設の特徴や力を入れている支援等も含め、他の施設を知る良い機会となりました。

午後からは各グループに分かれ、共通の事例2例を元に事例検討を行いました。アセスメントや支援方法等、どう見立て支援に結び付けるか、非常に難しかったと思います。困難なこと、分からないことがある場合に、まずは新任職員同士で意見を出し合い、先輩職員のアドバイスも受けつつケース検討が出来たことは、今後の仕事を行う上で大切なことではないか、と気づかされる研修会となりました。



#### 兵庫県・岡山県児童養護施設等関係職員研修会

平成24年10月29日と30日の二日間の日程で「兵庫県児童養護施設連絡協議会」と「岡山県児童養護施設等協議会」の合同研修会が開催され、両県から36名の参加がありました。今年で3回目となる研修会のテーマは前年度に兵庫県で行われた研修テーマを引き継ぐ形で「自立支援」について見識を深めました。



今回は兵庫県で検討・作成された『自立支援のツボ（自立支援計画票作成マニュアル）』を実際に使用し、岡山県側から提供された事例をもとに意見交換することでより良い支援について参加者が激論を交わしました。岡山県からは自立支援計画票のフェースシートとして作成している様式を紹介させていただきました。

二日目の朝は5時30分起床で、宿泊場所の側にある曹洞宗のお寺「円通寺」で暁天座禅を経験し精神修養も行いました。その後、円通寺住職の仁保哲明老師には「良寛さんのところ」と題してご講演をいただき、学びの多い二日間となりました。



#### 県外施設視察研修

平成25年1月23日～24日、大阪府の児童養護施設「聖家族の家」（大阪市東住吉区）と「遥学園」（三島郡島本町）への視察研修を実施しました。わかば園の松田施設長（職員関連事業部会長）を団長に、10施設から職員19名の参加がありました。

初日に見学させていただいた「聖家族の家」では、冒頭、中田施設長から園の概要と社会的養護の流れ等についてご説明いただき、本体施設と地域における小規模ケアを見学させていただきました。



聖家族の家



遥学園



聖家族の家



遥学園



遥学園

二日目には「遥学園」を見学させていただき、施設内の見学ののち、現場で勤務されている若手の職員さんと意見交換ができる場も設定していただき、より深みのある見学となりました。

両施設とも定員が100人を優に超える大規模施設でありながら、生活単位の小規模化・地域化に大変苦慮しながらも積極的に取り組む前向きな姿勢に、参加した職員一同感銘を受けました。

### 実践発表会



平成25年 2月19日、平成24年度（第25回）岡山県児童養護施設等職員実践発表会が、岡山県立成徳学校にて行われました。

4題の実践発表と岡養専門部会報告が行われました。実践発表では、児童の抱えている課題を見つけ、支援の内容や方法、細やかな支援の様子が詳しく説明されました。施設の子どもたちは年齢幅が広いうえにさまざまな支援を要することも多く、支援の内容は多様で、莫大な時間と労力を要することを再認識させられました。

実践発表後には、成徳学校の新寮の見学を行いました。新寮の前庭には職員と子どもたちの手で丹念に作られている庭や石垣や物干しがあり、寮内は県産の木材で明るく安全な雰囲気が漂い、毎日ご飯作りをしている広い配膳室や衛生的な浴室やトイレ等、恵まれた環境になっています。また、住み込みである職員の家族の生活へ子どもたちが日常的に参加できるような構造になっていて、悩みやうれしい話をしに來たり、家族の営みを見たり、たまに夕食に呼ばれたりすることで、将来、子どもたちが自分の家庭を作るとき、家族のあり方の参考になるような環境でもあったと感じました。



### 食育研修

平成25年 2月26日（火）岡山県児童養護施設等協議会職員研修会がみのり園を会場に開催しました。食育をテーマにして行われるこの研修会も今年で三回目を迎え、参加者が30人と前年度よりも倍近い人数になりました。

研修会では魚料理を試食した後、意見交換が行われました。今年は大きなテーマを設けず「各施設の情報交換」ということで、勤務形態、人気メニューや行事食、食べ物関連の行事、食器の管理、監査での指摘事項など施設生活での「食」に関わる様々な内容を話し合いました。

どのグループも非常に活発な意見交換が交わされ、とても充実した時間となりました。



## 児童関連事業部会事業報告

### 児童福祉施設卓球大会

平成24年10月6日、岡山県立成徳学校において第52回岡山県児童福祉施設卓球大会が開催されました。大会当日には9施設から、児童67名（小35名、中20名、高12名）の参加があり、各部門において熱戦が繰り広げられました。

会場のあちこちで名試合が繰り広げられるなか、次回大会に向けての課題も残りました。公式ルールの周知やマネー指導、事前練習をしっかりとしておくことなどが主な課題です。今大会の反省を次回の計画に活かし、よりスムーズな大会運営を目指して行きます。



### 料理教室

子ども達の食に対する意識と関心を高めることを目的とし、岡養協加盟施設の中学生以上を対象に、夏休み期間中の平成24年8月8日、岡山市南区サウスヴィレッジにて7施設40名の参加によって開催いたしました。

今年度は、最近注目されている「米粉を使った料理」をテーマに設定し、各施設2～3品のメニュー作りに挑戦しました。最終的には中華・和食・イタリアンと全15品のおいしそうな料理がずらりと並び、参加者全員和気あいあいとした雰囲気でご馳走をいただきました。

楽しい食事が終わったあとは、後片付けが子どもたちによって自主的に行われる姿も見ることができ、さらに子ども達からは「来年は何を作ろうか?」と今回の取り組みに対する前向きな声がかかれ、食育に関する良い機会が持てたと感じました。



### 岡山ドーム

平成24年11月17日、「第8回児童養護施設交流事業in岡山ドーム」が盛大に開催され、児童養護施設11施設から、児童183名・職員50名の参加がありました。

今年度は運動会プログラム競技7種目を準備し、ムカデ競争などの新種目も取り入れて実施しました。競技開始当初は子ども達の顔に緊張感がありましたが、プログラムが進むにつれて次第に会場中に笑顔があふれてきました。運動会の醍醐味でもある施設対抗リレーでは、子どもと職員が一体となり最後まで必死の声援を送る声が多量に響き、盛り上がりも最高潮を迎えて全プログラムを終了しました。

来年度は、平成25年11月16日の開催を予定しています。今回実施して浮かび上がってきた課題を整理し、参加する子ども達の笑顔を楽しみに内容を計画して行きたいと思っておりますので、ご協力の程宜しくお願い致します。



## 心理部会事業報告

今年度の心理部会は、経験年数の長短を問わず関心の高かった、性教育・性の問題への対応をテーマに、成徳学校の松坂先生に実践報告をしていただきました。

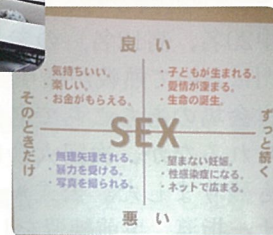
導入の部分でSEXの意味を考えると、縦軸に「良い」・「悪い」、横軸に「その時だけのもの」・「ずっと続くもの」を置き、4つのカテゴリーに分けて考えさせることにより、SEXのもつ意味が単一でない事に気付きやすくなります。

また、妊娠やレイプや援助交際や性感染症がテーマの時には、ドラマ「北の国から」「ひとつ屋根の下」「神様もう少しだけ」などを参考資料として活用するなど、子どもたちに具体的に考えさせるための準備や工夫は大いに参考になるものでした。

一般的な性教育でよくある「命を大切にしましょう」という話だけでは入所中の子どもたちに足りないと感じていた参加者からは、子どもたちにとって身近なリスクも伝えられる性教育として大いに参考になると感想が寄せられており、これをきっかけに松坂先生を講師に招いて職員や子どもを対象に性教育を行った施設がありました。

また、性的問題行動を有する子どもへの治療プログラムの紹介では、プログラムの3本柱として「テキスト」「性教育」「生活上のトラブル」があげられました。中でも「生活上のトラブル」は性的問題行動との関連が多く、生活上のトラブルから見えてくる問題性と性的問題行動と関連づけて子どもに考えさせるという話は、施設だからこそできる対応と言えるでしょう。

今後も施設心理職のスキルアップにつながるような会にしていきたいと思えます。



## 岡山市オレンジリボンキャンペーン



11月は児童虐待防止推進月間です。平成24年11月3日、児童虐待防止全国一斉啓発活動の一環で、岡山市オレンジリボン街頭啓発活動が岡山駅東口で展開されました。当日は岡山市オレンジリボン実行委員会のスタッフとして多くの関係者が集まり、道行く人に児童虐待防止への理解と協力を求めました。

啓発グッズを手にして、初めてオレンジリボンの意味が分かったと話される方や、児童虐待について改めて知るきっかけになったと言われる方も多く、啓発活動の必要性を感じられる時間となりました。

また、当日はオレンジリボン実行委員スタッフに交じって、玉島学園や南野育成園の子どもたちも啓発グッズの配布を手伝ってくれました。元気な笑顔で頑張る姿に、道行く人だけでなく参加スタッフもパワーを分けてもらいました。

子どもたちの笑顔の為に、オレンジの輪が大きく、強く広がってほしいと願っています。

## 編集後記



岡山県児童養護施設等協議会が新体制でスタートして、あつという間の1年でした。今号では各専門部会の取り組みを紹介させていただきました。それぞれの部会の活動の中で、施設長と現場職員と一緒に事業の企画や運営をすることにより、お互いに新たな一面を知るよいきっかけにもなったのではないのでしょうか。一方で、

今年度の活動から見えてきた新たな課題をもとに、来年度のよりよい活動につなげていきたいものです。

年度末のお忙しい中、広報誌作成にご協力いただきありがとうございました。次号ではさらに内容を充実していきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

平成25年3月31日

「広報誌 おかよう」制作スタッフ一同